

(様式2)

平成29年度全国・東京都・荒川区学力調査に関する結果分析シート

学校名 荒川区立尾久西小学校

調査名	分析	実施結果（正答率）	
		区	自校
区 学 力 調 査 全 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1年生は国語で区平均を2点弱下回り、算数では2点弱上回っている。児童分布は、90%付近に多くの児童が分布している。 ・ 2年生は国語で区平均を3点下回り、算数では5点弱下回っている。児童分布は、国語で80%から100%付近に多くの児童が分布している。算数で90%付近に多くの児童が分布している。 ・ 3年生は国語で区平均とほぼ同率、算数では2点弱下回っている。児童分布は、90%付近に多くの児童が分布している。 ・ 4年生は国語で区平均を7点下回り、算数では8点下回っている。社会では8点下回り、理科では7点下回った。児童分布は、70%付近に多くの児童が分布している。同学年は昨年度も一昨年度も区の平均を下回っており、授業に集中して取り組む姿勢が定着しづらいことが影響していると思われる。 ・ 5年生は国語で区平均を1点下回り、算数では4点下回っている。社会では3点下回り、理科では1点上回った。児童分布は、理科以外80%～90%付近に多くの児童が分布している。理科は70%付近に多くの児童が分布している。 ・ 6年生は国語で区平均を7点下回り、算数では5点下回っている。社会では5点下回り、理科ではほぼ区平均であった。児童分布は、国語以外60%～80%付近に多くの児童が分布している。国語80%～90%付近に多くの児童が分布している。 ・ 全体的に区平均を下回っていることから、繰り返し、基礎基本を定着させ、教科書の完全理解を目指し、子どもの学力向上を図る必要がある。 	1年	1年
		国 80.2 算 82.0	国 78.7 算 83.8
		2年	2年
		国 85.5 算 84.8	国 82.1 算 80.0
		3年	3年
		国 80.6 算 78.0	国 80.5 算 76.6
		4年	4年
		国 72.2 社 76.3	国 64.9 社 68.3
		算 79.7 理 65.7	算 71.5 理 58.7
		5年	5年
		国 75.4 社 70.4	国 74.1 社 67.2
		算 71.6 理 61.9	算 67.8 理 62.9
		6年	6年
国 74.6 社 67.8	国 67.3 社 62.1		
算 66.4 理 64.6	算 61.0 理 64.4		

都 学 力 調 査 小 5	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての教科で都の平均を7.6点～13.1点下回る。 ・観点別では、思考・判断・表現（国語では話す聞く）が都平均に比べ、学年で大きく下回っている。 ・読み解く力では、「取り出す力・解決する力」が低い。 ・学習規律を徹底させ、繰り返しの基礎基本の定着と、さまざまな応用問題への取り組みが学力の向上につながると考えられる。 ・成績分布では、50パーセント付近と80パーセント付近に多くの児童が分布している。 ・関心意欲がすべての教科で都平均を下回っている。学習への意欲を高める工夫が学力の向上へとつながっていくと考える。 	都	自 校
		5年 国語 67.8 社会 71.1 算数 61.4 理科 71.6	5年 国語 60.2 社会 58.0 算数 51.5 理科 63.5
全 国 学 力 調 査 小 6	<ul style="list-style-type: none"> ・国語では、Aで全国平均を3.8点下回る。Bでは全国平均を5.5点下回る。このことから、基本的な知識、活用する力ともに不足していることが分かる。 ・算数では、Aで全国平均を3.6点下回る。Bでは全国平均を5.9点低く大きく下回っている。このことから、基本的な知識、特に活用する力が不足していることが分かる。 ・国語、算数ともに児童の成績分布は、都、全国並で、基本的知識は、高得点者が多く、活用する力は50%～60%付近に多く児童が分布している。 ・全体的に全国平均を下回ることから、繰り返し、基礎基本を定着させ、考える力を伸ばしていかなければならない。 	全 国	自 校
		6年 国語A 74.8 国語B 57.5 算数A 78.6 算数B 45.9	6年 国語A 71 国語B 52 算数A 75 算数B 40